

特養の作業療法士の役割

くらし事業部 お客様連携係
作業療法士 中尾亮介

特別養護老人ホーム 機能訓練指導員

廃用症候群の予防、生活の活性化。

生活機能の維持・向上。



芦別慈恵園での作業療法士の役割

お客様の動き出しから生活が活性化する

リハビリ計画を立て、確認する人

最初は機能訓練にこだわっていた

立位保持10秒

座位保持10秒

3歩程度歩く



気付いたきっかけ

職員の介助を見る機会が増えた。

5年目からは新人と介護技術研修を3か月開催。

知らなかったお客様の様子や職員によって異なる介助の悩み事を個別に聞くことができた。



	介助検討したお客様	介助検討した職員
旭グループ	MN様、OS様、MM様、OA様、AM様、IM様、YK様、TS様、SK様、OK様	宮崎リーダー、鈴木サブ、北村cw、阿部cw、仲野cw、長野cw
愛グループ	OK様、KE様、SK様、SN様、KR様、MY様、ZS様、HH様	市原cw、山内cw、松下cw、藤澤cw
和顔グループ	TS様、SK様、NM様、KS様、YN様、SH様、US様、YT様	西村cw、伊藤cw、奥田cw、森川cw、吉岡cw、佐々木cw
かざぐるま	MH様、MM様、SK様、YM様、KH様、OS様、OH様、UH様、NT様	佐藤リーダー、斉藤サブ、坂田cw、山本cw、大場cw

	介助検討 の件数
従来型	74名
ユニット型	48名
かざぐるま	17名
合計	139名 (H30.4～H31.2の11か月)

職員と一緒に「動き出し」について考える

機能訓練にこだわるよりも...

職員が「ちょっと待ってみよう」「どこまでできるかな?」と思っただけかかわる。お客様の变化もあきらかに。



自分自身の課題もわかってきた。

お客様をよく知らない、スタッフからの情報収集不足、まだまだ待てない... 伝えることで自分自身の向上にもつながった。

北村cw 7年目

旭グループ

10月の介護技術研修にてO様を实践。



実施にあたり、リーダーやサブリーダーも一緒に実施。

北村cw



北村cwより

- ・どのぐらい待てばよいのかわからない。
- ・端座位がなかなか安定しない
- ・柵をつかまれ、起きようとすると柵ごと起きてしまう。 など

見ていて感じたこと

- ・起き上がりの介助のスピード
- ・介助する手に力が

北村cw



数年かけて変化していく人がいた

病院や在宅など様々な場所から入居される。

病院...動いていなかった分、早い段階で動けるようになる方が多い。

在宅...栄養状態がよくなって、動けるようになる方が多い。

最近では2~3年かけて元気になられたり、維持されてると実感してきた。



事例 A氏



2年後の様子



A氏のアルブミン値・体重・BMI

	H29.8	H31.1
アルブミン値	4.3	4.1 (-0.2)
体重	44.5kg	48.4kg (+3.9)
BMI	22.7	24.2 (+1.5)

事例② B氏



2年後の様子



B氏のアルブミン値・体重・BMI

	H29.8	H31.1
アルブミン値	3.6	3.9 (+1.5)
体重	33.7kg	40.2kg (+6.5)
BMI	15.4	17.2 (+1.8)

事例③ C氏



2年後の様子



C氏のアルブミン値・体重・BMI

	H28.4	H31.1
アルブミン値	2.2	3.7 (+1.5)
体重	29.9kg	36.6kg (+6.7)
BMI	14.6	19.8 (+5.2)

特養の作業療法士の役割とは？

職員と一緒に考える。

①目の前のお客様がどこまでできるか。

②どこから介助するか。



映像を撮る

変化を実感する ← 介助を振り返る

ご清聴ありがとうございました

